

小学生のみなさんが書いた記事やイラストをけいさいしている「読もっか こども記者だより」。奈半利町に住む奈半利小3年の野村音葉さん(8)、2年の桔平さん(7)は、このコーナーおなじみのきょうだい記者です。「新聞にのるとうれしい」「もっと書きたい!」。投こうをこつこつ続けることで、書く力もついてきたそうです。二人の自宅を訪ねて、楽しく取り組んでいる様子を見せてもらいました。  
(松田さやか)



3年 音葉さん

2年 桔平さん

のるとうれしい

間ちがいへったよ

二人が最近書いたイカす記事とイラストだよ

きょうの記者 だより



お母さんのあいことば

★奈半利町・奈半利小★

わたしは、お母さんからあいことばを覚えてもらいました。それは、「わたしならできる」です。土曜日や日曜日にこども園やゴリラ公園まで走りに行くことが多いです。行くと中には、上りざかがあるから、その時にお母さんのあいことばを思い出しながら、本気を出します。上りおわったら休けいします。その後、弟とお父さんが上りおわります。

お父さんはわたしに「音、はよい」と言ってくれます。わたしは、お母さんのおかげだと思いました。

わたしは、お母さんのあいことばを大切に、はやく走れるようになりたいです。お母さん、ありがとう。  
(3年、野村音葉記者)

奈半利小の  
野村きょうだい

こども記者 楽しいよ!

ある休日の午前中。野村家のダイニングで、音葉さんと桔平さんが真剣な表情で投こう作品を書いていました。

「『電池』の『ち』ってどんな漢字?」

「父ちゃん、これどうやって書く?」

時々、お父さんとお母さんに相談しながらえんぴつを動かし、ともに30分ほどで「できた〜!」。漢字の間ちがいがないか見直しをしたり、タイトルを記入したりして、それぞれの作品が完成しました。

身近な出来事 作文や絵に



こども記者になったきっかけは、「読もっか」を知っていたおばあちゃんのすすめ。音葉さんが1年生のとき、七五三参りの体験を書いた記事が初めて新聞にのりました。

以来、昨年1年生になった桔平さんも加わり、きょうだい記者の活動を続けています。トライアスロン大会で1位になったこと、家族で鳥取県に行った思い出、がんばった運動会…。二人は週末の時間があるときに身近な出来事を思い出して書き、2024年度は音葉さんが記事13本とイラスト10本、桔平さんは記事9本とイラスト10本を投こうしました。

絵本作家を夢見る音葉さんは「絵をかくのも作文を書くのも大好き!」。意欲的に取り組む中で、前より長い文章もすらすら書けるようになったといいます。



よく観察してイラストをかく桔平さん

桔平さんは記事を書くことが少し苦手でしたが、この1年で慣れてきたそう。「前は字をいっぱい間ちがっていたけど、ちょっとしか間ちがえなくなった」とニコニコ顔で話しました。

新聞にのると、安芸市に住むひいおじいちゃんをはじめ、地域の人らが声をかけてくれ、二人の力になっています。

新年度の目標を聞くと、音葉さんは「2年生のときよりもたくさん書きたい」、桔平さんは「きれいな絵とか、上手な作文がのったらしいな」と元気な声で返してくれました。

こども記者になろう!

高知県内の小学1〜6年生ならだれでもこども記者に登録できます。記事、イラストともテーマは自由。イラストは自分が考えたオリジナル作品を専用用紙に書いて送ってください。いずれも郵送とメールで投こうを受け付けています。

送り先、問い合わせは、〒780-8572高知市本町4-1-24 高知新聞社「読もっか係」、メール(kodomo@kochinews.jp)、電話(088・825・4870)。高知新聞のウェブサイトにも登録方法などをしょうかいしています=QRコード。



みなさんの投こうを待っているよ。気軽に書いて送ってみなイカ〜!

ていねいな字で記事を書く音葉さん

